

平成 30 年度ウミガラス保護増殖事業 実施計画（案）

1. 誘引対策

(1) 音声装置の稼働

ウミガラスを誘引する音声装置を、赤岩基部に可能な限り 3 月中に設置・稼働する。

(2) デコイの設置作業

近年、赤岩対崖繁殖地内で繁殖場所が拡大していることから、繁殖シーズン終了後（8 月中～下旬）にデコイ等を新たに設置するほか、老朽化しているデコイの交換などを実施する。

2. 飛来・繁殖調査

繁殖地内カメラや目視等により、飛来数、餌運び、雛及び巣立ち等の調査を実施する。特に近年は繁殖範囲が拡大していることから、できる限り広角にカメラを設置し、繁殖箇所の把握に努めるようにする。

(1) 繁殖地内カメラの稼働（交換・メンテナンス）

4 月中に既存の繁殖地内カメラの交換とメンテナンス作業を行う。また繁殖地内に残置してある VDS 機器やケーブルの老朽化が想定されるため、交換を行う。

(2) 渡り調査

ウミガラスの渡りの時期である 3 月～4 月上旬に渡りの調査を数度、実施する。

(3) 目視調査

その他随時、目視による調査を行う。

3. 捕食者対策

H29 年度に引き続き、オオセグロカモメ・ハシブトガラスの捕食者対策を実施する。

(1) 銃器（エアライフル）による捕獲

1) 実施時期

5 月から 8 月（週 1 回程度）

2) 実施範囲・捕獲上限数

a) オオセグロカモメ

ウミガラスに被害を及ぼす恐れのある赤岩対崖繁殖地周辺の個体を捕獲する。ただし、近年のオオセグロカモメの繁殖状況を踏まえ、状況に応じて捕獲範囲を縮小するなどの対応を行う。

b) ハシブトガラス

ウミガラスに被害を及ぼす恐れのある海鳥繁殖地・ねぐら周辺の個体を捕獲する。

(2) モニタリング調査

ハシブトガラスについて、抱卵期・育雛期・巣立ち期などステージごとの個体数をラインセンサス調査などで把握し、効果的な対策方法や時期などについて、検討を行う。

オオセグロカモメについても、天売島海鳥研究室の調査に協力し個体数に変動がみられるか調査する。

4. 普及啓発活動

繁殖地内カメラの映像（音声付き）などを活用し、ウミガラスに関するリアルタイムの情報発信を地元関係者、観光施設などと連携して実施し、海鳥保全の普及啓発・地域振興に活用する。

